

韓国環境部プレスリリース 2020 年 1 月 23 日付

## 江原道の野生いのしし弊死体から ASF ウイルス検出 (野生いのしし 96-98 例目)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1213100&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は、江原道（カンウォンド）華川郡（ファチョンゲン）華川邑（ファチョンウプ）広域フェンスの中で発見された野生いのしし死体 3 個体から ASF ウイルスが検出されたと 1 月 23 日明らかにした。

死体は全 1 月 22 日豊山里（プンサンリ）の山で環境部捜索チームによって発見された。華川郡（ファチョンゲン）は野生いのしし ASF 標準の行動指針により試料を採取して現場消毒と共に死体を処理した。

国立環境科学院は 1 月 23 日、死体から ASF ウイルスが検出されたことを関係機関に通知した。これで華川郡（ファチョンゲン）では 13 件の野生いのしし ASF 確定診断となり、全国的には 98 件になった。

国立環境科学院生物安全研究チーム長は"今回の死体は全て設置中の 1 次フェンス内で発見された"として、"フェンスを早く完工して周辺地域捜索を徹底する"と話した。

以上